

自治労連のルーツに触れる

友愛会館で執行部研修を開催



平成30年1月14日(日)、東京都港区の友愛会館において、執行部研修を開催し、「友愛会」や「総同盟」の理念、労働運動の歴史などを改めて学びました。

平成30年1月13日(土)の四
役会議及び執行委員会に引き続
き友愛労働歴史館(三田会館8
階)で、間宮悠紀雄事務局長から
「民主的労働運動の歴史と理論
」同盟の今日的意義を探る」

と題し、常設展示室・労働運動の
歴史など解説をいただきました。
以下、研修内容を要約いたしま
した。

【民主的労働運動の嚆 矢 福沢諭吉と友愛会】

明治27年、福沢諭吉らは惟一
館(現友愛会館)を建設し、米國
から招いたユニテリアン教会の
活動を支援しました。そこに職員
として所属してきた鈴木文治に
より友愛会が創設されます。福
沢諭吉と友愛会には直接の関係
はありませんが、彼の「独立自尊
」やユニテリアン教会の「人間の
尊厳」が友愛会の理念「自由、自
主独立、人格向上」と通底してい
ること、ユニテリアン教会を支
え、鈴木文治がそれらに影響を
受けていたことから、ゆかりの
人物と位置付けられています。

【戦前の労働運動 「労働組合主義」】

大正時代の友愛会は革命主義
や実利主義、共産・階級主義など
の組合主義がある中、友愛・人格
向上主義を貫き、労働者が自主
的に労働条件の維持改善、経済
的地位の向上を図ることを中心
に据えた活動をしており、友愛
会綱領には「相愛扶助、人格の陶
治・技術の進歩、経済的地位の改
善」が謳われています。

【戦後の労働運動 「民主的労働運動の継承」】

敗戦後、労働組合の育成政策
が展開されると同時に相次いで
労働組合が活発に結成されます。
大きくは総同盟、産別会議から
スタートし、総評や全労会議の
結成、やがて労働4団体(同盟、
総評、中立労連、新産別)時代、
そして民間連合、官民統一連合
へと変遷していきます。現在あ
る組合の多くがこれらの流れの
中で何らかの形で端を発してい
るといわれています。
さて、戦後の国内外情勢や社
会経済の変化に伴うかのように、
労働運動も離合集散を繰り返し

祝

八代市役所職員組合70周年記念式典を開催

～未来に向かって結束を深めよう～

平成30年2月9日(金)

場所 八代グランドホテル



八代市役所職員組合では、結成70周年を祝い、各課代議員、元執行役員を含め総勢90名の出席のもと、記念式典を開催しました。

オープニングセレモニーは、県内外で幅広く活躍される秀岳館高校雅太鼓部に雅太鼓を披露していただきました。常に前を向き笑顔で演奏する姿と、力強い演奏の迫りに魅了され、感動的な幕開けとなりました。

主催者挨拶では、中川執行委員長が「これまでの歴史を振り返ると組合の歴史が示す通り、その時代を担う者が直面した課題に対して最善の方法で解決を導き出してきたことが今日に繋がり、またそれを今私たちが次の世代へ継承しなければならない。また、職員組合は時代のニーズに応える集団であることが求められている」と述べました。

続いて、多数の来賓を代表して関谷中央執行委員長より、70周年を祝うと共に、今後の発展を祈願する祝辞をいただきました。

功労者表彰では、平成17～18年まで当組合の執行委員長をされた川田様より「あつという間の

10年だったが、これから先の10年があつという間とならぬよう一日一日を大切に過ごしてほしい」との言葉をいただきました。

会場では、これまでの歴史を振り返るDVDを鑑賞しながら、和やかな雰囲気の中、思い出深い映像に昔を懐かしむ声があちこちから聞こえてきました。

今回の記念式典開催は、70年という歴史を振り返ると共に、これから先の未来に向かって、組合員同士の結束を深め、自治労連の発展を祈願する、当組合らしく素晴らしい場となりました。これから当組合は日々多様化する公務の重責を自覚しつつ、人の役に立ちたいと志し、この職を選んだ頃の初心に帰り、自治労連の綱領に掲げる「自由にして、民主的な労働運動」という理念の確かさを胸に突き進んでいきます。

今後とも八代市役所職員組合の発展のため、自治労連各単組の皆様のお一層のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

【八代市役所職員組合】

ですが、民主的労働運動の理念は引き継がれます。これは、総同盟憲章の「人間尊重の精神、労働者の生活と地位向上を達成せんとする社会正義の精神、現実を踏まえて改善を積み重ねてゆく」とする現実主義の建設的精神、全労働者憲章の「人間の尊厳をすべて人間が尊重することを基調とし、自由と民主主義と社会正義を自由にして民主的な労働組合の原則として、ここに確認し宣言する」、同盟憲章の「①働く者の人間性向上、幸せの拡大、②進歩と繁栄と社会正義の実現、③自由と民主主義の原則を守る、④国民とともに歩む」で明らかであります。

【同盟の今日的意義】

労働運動黎明期に創設された友愛会の歴史と伝統を引き継いだ中央労働団体であり、日本で唯一、国際組織（ICFTU）に加盟し、中央・地方が一体となった活動を展開しました。ゆえに事実上、ただ一つのナショナルセンターとされた。個人主義に立脚し全体主義と闘い、労働者階級・革命論に立たず、改革・漸進の立場で、国民と共に歩むことを目指しました。

私たちは今、連合というナショナルセンターに加盟していますが、連合が「友愛会の再来であり、同盟体へ発展

し、我々の理念（綱領）を目的と行動に反映できている」と明確に感じられるでしょうか。改めて原点に立ち返り、自治労連が担う役割を再認識し、行動に移すときがきています。是非、自治労連構成組織の皆さんも、機会をおつくりいただき、友愛会館をお訪ねいただければと思います。

【中央執行委員会 教育宣伝部】



間宮事務局長からのメッセージ

「労働組合は労働諸条件の維持・向上、経済的地位の改善を図るだけではなく、個人主義・自由主義を尊重する労働者を育むもの。それはリクリエーション（人間再創造）であり崇高な理念なのです。」

ユース世代単組間交流 in 熊本

全国から集った仲間たち

熊本地震の被災状況を知る



平成 29 年 11 月 18 日（土）、ユース世代単組間交流会を開催しました。集合場所は熊本城のお膝元、桜の馬場 城彩苑。参加者の皆さんは集合時間前から、熊本城・城彩苑界隈で、熊本城の歴史や観光情報、熊本名物等をお楽しみいただけましたようです。

桜の馬場 城彩苑そして益城へ

熊本城は昨年の熊本地震からの修復工事のため立ち入り制限となっており、残念ながらご案内はできませんでしたが、今後熊本城の修復完了の暁には、皆さんのご来館をお待ちしております。本来は昨年熊本市で単組間交流を行う予定でしたが、熊本地震への対応のため実施困難と判断した際に、山口県周南市にて交流会を行っていたとき、誠にありがとうございました。この場をお借りして周南市役所職員組合の皆様にも御礼申し上げます。

まず、歩いて市民会館まで移動し、バスにて熊本市内から熊本地震の震源地の益城町へ。車内にて福田執行委員長が挨拶を行い、熊本市の現状についての説明がありました。

その後、阿部ユース部長より熊本地震についての説明があり、被災者でもあり、支援者でもある公務員の立場として、当時の経験の話がありました。また、益城町で仮設住宅を2ヶ所（テイクノ仮設住宅、赤井仮設住宅）車内から見学しました。震災から1年と半年が既



▲お楽しみのビール試飲中！

で、仮設住宅の存在は、地震を想起させるものであります。県外の方には、ここで地震があったとは感じられなかったのではないのでしょうか。

嘉島町 熊本が誇る工場 見学

益城町の見学後は、嘉島町のサントリービール工場へ。サントリーのビール工場は、特に水が美味しいとされる場所を選定して建設されており、日本に4箇所しかなく、群馬、東京、京都に続いて熊本県嘉島町にあります。

工場到着後はガイドさんの説明のもと、約70分間プレミアムモルツの作製工程を見学しました。



その中でも、昨年の熊本地震による被災の説明があり、現在見学スペースの天井は、地震対策として、揺れにより剥落した場合でも怪我のないように紙に近い軽い品質のものを使用しているとのことでした。

見学後はお楽しみの試飲があり、3種類のビールを飲みながらの交流がありました。工場のある御船町も地震による被災家はあまり見られず、熊本地震も過去の記憶となりつつあることを感じました。

さらに交流を深められた夜

ビール工場見学後はバスにて熊本市役所へ移動。その後懇親会会場へ向かいました。ユース世代の皆さんと交流し、杯を交わして呑み食をでき、楽しい時間を過ごすことができました。



▲同じ世代同士、楽しく過ごした懇親会

また、その中で熊本地震の経験談をお話した際に、皆さん真剣な顔で聞いていただいたことが印象に残っています。また、懇親会も2次会、3次会と続き、本当に楽しく貴重な時間を共に過ごせたと思います。ご参加いただいた皆様、本当にありがとうございました。熊本市へお寄りの際はご連絡いただければ、おもてなしさせていただきます。またのお越しをお待ちしております。

【熊本市役所第一職員労働組合ユース部】

